

—平成31年 <sup>むつき</sup>睦月（1月）のことば—

明ケマシテ  
オメデトウゴザイマス

本年モ  
ヨロシクオ願イ  
申シ上げマス



今年は亥年です。さてさてどんな一年になるのでしょうか。古代ギリシャのイソップ寓話の中にも猪たちが何篇か登場しています。良き年とするための智慧がそこに盛り込まれていますので、早速「ライオンと猪」からご紹介しましょう。

ある日のこと、のどが渇いたライオンと猪が泉に水を飲みに来てきました。どちらが先に飲むかで言い争いになり、そのうち互いに命懸けの大げんかになってしまいました。ところが、息をつくためにふと上を見上げると、ハゲタカたちが大空で渦を巻いてどちらか倒れた方を食べようと狙っていました。そこで、ライオンと猪はけんかを中断して言いました。「ハゲタカやカラスの餌食になるくらいなら、仲よくした方がずっといいよな。」平和が一番。つまらぬけんかや争いはやめるべきです。諺にも「漁夫の利」があります。「蛤が殻を開いて日なたぼっこをしていたら、シギ（鴨）が飛んできて蛤の身を食べようとしたので、ハマグリは口を閉じて、シギの嘴（くちばし）を挟んでしまいました。両者が譲らない争いをしていたところ、たまたま通りかかった漁師が両者を難なく生け捕りにしてしまいました。」とき。クワバラ クワバラ…。

もう一話「猪と狐」です。猪が切り株で牙を砥いでいると、狐が通りかかりました。狐は他をからかうチャンスをいつも探していたので、いかにも隠れた敵を警戒しているように、心配そうにキョロキョロ見回して大げさに演じてみせました。ところが猪は自分の仕事に集中しているだけ。狐は「なんでそんなことしているんだい？どこにも獵師なんかは見えなだろうに。」とからかうように尋ねました。「その通りだとも。でもよ、実際に危険が迫ったら、こんな事をしてる暇はないんでね。おいらの武器をそのときのために使えるように準備しているだけさ。」間違っても軍備増強を謳っているわけではありません。災害の頻発する昨今ですので、「備えあれば憂いなし」とご理解ください。やはり基本はライオンと猪のように仲良く平穏に…、そんな一年でありますように。

しょうこうじ 正光寺 みょうけん 妙見さまの星祭り

北極星の化身で、私たちの生まれ星を守って下さる妙見さまは、古来より人々の苦難を救い、この地球を守る菩薩さまとして多くの信仰を集めてきました。正光寺では毎年善男善女がこの一番寒い季節にお参りをして心身を浄め、自己を振り返り、願いや誓いを立ててきました。そんな私たちを見守って応援して下さるのが『妙見菩薩さま』であり、不安や迷いの雲を祓って下さるのが『大般若経』の功德です。餅投げや豆まきも行いますので、大人も子供もお誘い合わせて是非ご参詣下さい。

\* 大 祭 日 . . . 1月27日 (日)

\* 大般若祈祷 . . . 午前10:30より

\* 餅・豆まき . . . ご祈祷終了後



おモチも  
た〜くさん  
まくんだって



正光寺：浜松市東区豊町749  
TEL 434-0800 / FAX 443-7410